

スリーアール

3Rのススメ。



2024
冬②

今回のシリーズは、京都府の依頼を受けて産廃の3R技術の紹介をしています。先日、京都府内の産廃処分業者を訪問して会社概要や処理技術、今後の方向性などをお聞きしました。

特集

高効率廃棄物発電と地域貢献

株式会社京都環境保全公社

会社概要・PR

株式会社京都環境保全公社は産業廃棄物の収集運搬・中間処理・再資源化・最終処分までの一貫処理を行っています。安心・安全な産業廃棄物の適正処理とリサイクルの推進により、循環型社会の形成に努めています。

2022年には、高効率熱回収施設（熱回収率23.4%）を竣工し、産業廃棄物による発電や熱（蒸気）供給といったエネルギー事業を開始するとともに、災害（停電）時に非常用電源の供給など地域の災害支援体制を整備しました。

また小学校へのお出前環境学習の実施やさまざまな地域貢献活動を通じて、地元地域と活発なコミュニケーションを図っています。



廃棄物発電の3R技術

焼却（サーマルリサイクル、廃棄物発電）

- ① マテリアルやケミカルリサイクルできない産業廃棄物に対して
- ② 当社が保有する高効率熱回収施設（当社3号焼却炉）において焼却処理することで
- ③ 焼却過程で発生する廃熱エネルギーを発電や熱（水蒸気）供給し最大限に活用できます。

稼働時は伏見センターの電力を全て賄うことができ、自社のEV車・EVフォークリフトにも使用しています。

余剰電力は電力会社へ売電し、その収益の一部を環境ファンドへ寄贈しています。また、有事の際は地域の避難施設へ電力を供給することが可能となっています。



3Rを進めるための課題や要望

リサイクルを推進するためには、原料となる産業廃棄物の品質が重要となります。原料品質を高めるためには、排出事業者の産業廃棄物の分別精度の向上が必須となります。

排出事業者は分別を進めることで、産業廃棄物の処理費用が安価になるメリットを享受することができますが、一方で多種多様な組成や性状の産業廃棄物を分別するには、人手や場所の確保など、多大なコストがかかり、これが分別精度向上への大きなハードルとなっています。

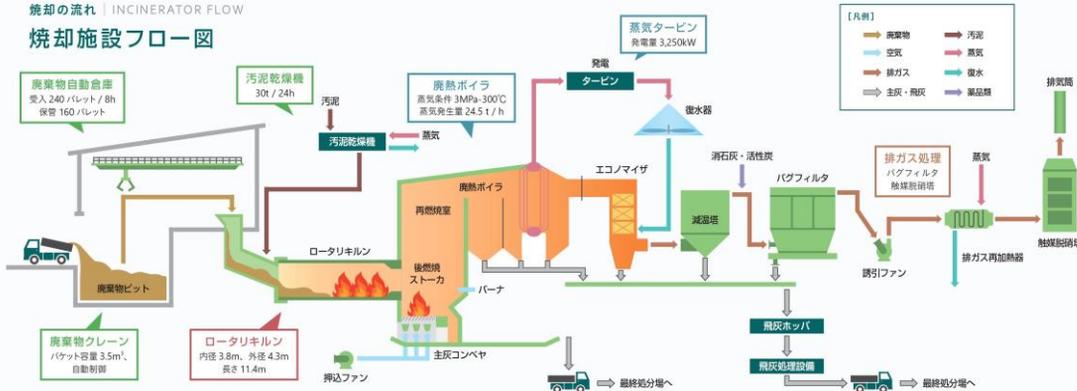
今後の思い

マテリアル・ケミカルリサイクル事業の具現化と既存のサーマルリサイクル（廃棄物発電、RPF製造）の最大化を図ることにより、2030年度伏見センターのリサイクル率95%達成を目指しています。

また、地球温暖化や生物多様性の損失などの環境影響の低減や、社会的な環境課題の解決に向け、事業を通じて解決策を提供できる企業であり続けます。

焼却の流れ | INCINERATOR FLOW

焼却施設フロー図



サーマルリサイクルは単に焼却するだけでなく、温暖化対策にもつながるよう廃棄物から発電を行い、電力供給を行います。